

<p>建学の精神</p>	<p>高度の知識を授け、人間性の高揚を図り、専門知識と応用技術をもって社会に貢献し、世界文化の向上と人類福祉に寄与する人物を養成する。</p>	
<p>基本構想</p>	<p>(1) 食・栄養、福祉、介護、スポーツ、保健医療、教育・保育・心理の分野で、その存在を地域社会から広く認知され、その課題解決の能力を大いに期待される学園を目指す。 (2) 「あすなろう」の精神に基づき、高い志をもって前向きに努力する心を育む人間関係と質の高い専門的な教育と研究を実施する。 (3) 人口減少社会、超高齢化社会、急速に進むグローバル社会など厳しい現状を冷静に分析し、意識改革をしてイノベーションを目指す戦略的な学園運営を行う。 (4) 第4次中期目標・中期計画は、平成30年度から平成34年度までの5年間とする。</p>	
<p>学園方針</p>	<p>5つの柱：マスタープラン (1) 永原学園のブランド力強化 学園全体及び各部門の存在感を示す。各部門の個性を発揮する。教育研究の質的転換。 (2) 学生、園児の学習・生活支援 学生、園児の学習・学園生活を強力に支援。キャンパス・教育環境・自然環境の整備。 (3) 地域連携・協働 地域の地（知）の拠点となる教育研究の実施及び地域再生の核となる事業の創出。 (4) リカレント教育の推進 リカレント教育の戦略を策定。学びやすい学内環境の整備（体制の整備） (5) イノベーションの創出 困難な時代を切り拓く新たな挑戦を積み上げて変革を目指す。グローバル化に挑戦。 (6) 経営の安定化 入学定員確保のための全ての行動を格段に強化。財政基盤の強化。ガバナンスの強化。</p>	
<p>教育目的</p>	<p>建学の精神を基本として、よき社会人としての教養を高め、広く知識を受けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成する。(学則 第1条)</p>	
	<p>地域生活支援学科</p>	<p>幼児保育学科</p>
	<p>地域生活者の生活の質の向上を目指した支援を目的に、食と栄養・介護と福祉・多文化と国際化に関する専門知識と実践技術を修得して地域への貢献と活性化の活動ができる人材を養成し、そのための教育研究活動を行う。(学則 第3条)</p>	<p>保育に関する知識と技術を備えた高い実践力を持つ保育者の養成と豊かな人間性を兼ね備えた人材の養成を目指し、そのための教育研究活動を行う。(学則 第3条)</p>

受入れ方針 (アドミッションポリシー)	西九州大学短期大学の教育の理念・目標に則り、各学科の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜を実施し、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜する	
	地域生活支援学科	幼児保育学科
	<p>専門的かつ複合的な知識と技術を活用して、多様な生活意識を持った人々への生活支援および地域の活性化にも貢献できる「マルチに学び、マルチに活動する」人材を養成するために、高等学校教育相当の学力、特に学修の土台となる日本語の読解力と記述力を求めます。また人々との交流をとおして、多様な意見を汲み取りながら主体性を持って協調的に行動する力を有していることを期待します。さらに各コースに挙げる意欲、能力、適性を持った学生を受け入れることを基本方針とします。</p> <p>●食生活支援コース</p> <p>①食の大切さや食育の重要性をとおして、人々の健康づくりで生活支援をしたい人。</p> <p>②食への知識や技術を磨くことに意欲を持ち、努力を惜しまない人。</p> <p>③食べることが好きで、おいしいものを作ることに熱意を持っている人。</p> <p>④食をとおして人々と地域の活性化に役に立ちたいとの強い意志を持ち、多彩な食の現場で活躍しながら生活者への支援をしたい人。</p> <p>●福祉生活支援コース</p> <p>①介護の知識や技術、福祉制度を学修して、人々の快適な生活を支援したいという目的意識のある人。</p> <p>②世の中のできごとに常に関心を持ち、社会を良くしたいという目的意識のある人。</p> <p>③人が好きで、介護や福祉の仕事に熱意を持って生活支援をしたい人。</p> <p>④自分を成長させ、人と地域の活性化に役に立ちたいという意欲のある人。</p> <p>●多文化生活支援コース</p> <p>①人々の生活と意識の多様性を柔軟に受け止めながら、生活者に寄り添った人間味のある支援をしたい人。</p> <p>②多様な国内外文化とことばに興味を持ち、外国語とコミュニケーション力を駆使して広く人々への生活支援業務に従事したい人。</p> <p>③観光や旅行ビジネスに興味を持ち、地域の文化や特性を活かして人々の幸せと生活向上への支援をしたい人。</p> <p>④外国の若者と一緒に語らい学修することに興味を持ち、海外留学を目指して国際人として羽ばたきたいとの熱望を持っている人。</p>	<p>将来、保育所、幼稚園、福祉施設において、保育に関する専門知識・技術を基盤として、児童の保育及び保護者に対する保育に関する指導を行うことができる保育者を育成するために、次のような能力、意欲、態度を持った学生を受け入れることを基本方針とします。</p> <p>①他者（特に、子ども）との交流に積極的であり、且つ共感することができる人。</p> <p>②ボランティア活動や職業体験に積極的に参加した経験を有する人。</p> <p>③自己の多様な体験をふりかえり、それを表明・省察することができる人。</p>

短期大学士課程における教育課程編成の方針

1. 西九州大学短期大学部は、学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成する。
2. 西九州大学短期大学部は、教育課程の編成に当たっては、学科の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、確かな人間力を涵養するよう適切に配慮する。

短期大学士課程における教育課程運営の方針

1. 西九州大学短期大学部は「学位（短期大学士）授与の方針」に定めた、卒業時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバス等で「学位（短期大学士）授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸能力等を修得する方法を理解しやすいように配慮する。
2. 西九州大学短期大学部は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、予習・復習等、授業時間外の学修機会に加え、学外での体験的学修を通じ、諸課題に積極的に挑戦させる。
3. 西九州大学短期大学部は、学生が自己の到達度を自ら判断し、必要な科目を自ら選択し、履修計画を作成できるように教育課程を構成する。
4. 西九州大学短期大学部は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複次的・複層的な積み上げによる成績評価を行う。

教育課程の編成及び運営の方針に基づき、次の成績評価の方針を設ける。

《アカデミックアセスメント・ポリシー》

各教科目において、到達目標に定める学修成果に対して評価の観点を明確にし、学生の成績評価を示す。

各教科目では学修に対する測定設計（手段、筆記試験、技能試験、パフォーマンス評価、ルーブリックなどの、真正の評価を含む）を行う。

- ①成績評価は、【態度 志向性】・【知識 理解】・【技能 表現】・【行動 経験 創造的思考力】の領域区分にある到達目標に記される学修成果として評価を行う。
- ②それぞれの教育内容に対応する学修成果について、知識の次元に類別（例えば、非認知的成果・知識成果・技能成果・認知的成果に類型）し、学修成果の到達基準（例えば、記憶・理解・応用・分析・評価・創造の段階的レベル）を設定し、各学修内容の測定法（例えば、筆記試験・技能試験・レポート・質疑応答・パフォーマンス・ルーブリック）を明確にして評価を行う。
- ③各学科の学士課程教育においては、各種専門資格・免許の養成に対して外部指標を設けアセスメントテスト等を実施し評価を行う。

教育課程の編成及び運営の方針に基づき、次の学修成果の評価並びに改善の方針を設ける。

《エバリュエーション（評価・改善）ポリシー》

【評価】学修成果の評価結果を本人に適切にフィードバックし、その後の改善や成長につなげていく。

【改善】学修成果の評価結果は、直接的に関係するものとして、カリキュラム、コース内容または教育の改善、そして学修成果を改善する可能性がある変更役に立てる。

教育課程方針（カリキュラムポリシー）	地域生活支援学科	幼児保育学科
	<p>「食」・「福祉」・「多文化」の3つの生活分野と「いのち」・「くらし」・「人生」の3つの生活支援レベルを組み合わせた知識と技術を体系的に修得できるカリキュラムを編成する。</p> <p>①共通教育科目では、建学の精神「あすなろう」を中核とし、より豊かな人間性の育成を図る。</p> <p>②専門教育科目では、各コースに特徴的な専門的知識と技術を中核とし、コース間の横断的履修を可能とするカリキュラムも組む。</p> <p>●食生活支援コース</p> <p>③食と栄養に係る分野で、「社会生活と健康」・「人体の構造と機能」・「食品と衛生」・「栄養と健康」・「栄養の指導」・「給食の運営」の6領域における科目を重視し、国家免許「栄養士」の資格取得のための専門科目を設ける。</p> <p>●福祉生活支援コース</p> <p>③福祉に係る分野で「人間と社会」・「介護」・「こころとからだのしくみ」・「医療的ケア」の4領域の連携を重視して「介護」の科目をバックアップし、国家資格「介護福祉士」の受験資格取得のための専門科目を設ける。</p> <p>●多文化生活支援コース</p> <p>③多文化複合領域に係る分野で、「外国語」・「観光と旅行」・「ホテルビジネス」・「ホスピタリティ」・「コミュニケーションとプレゼンテーション」の科目を重視し、食と福祉の分野とも連携しながらマルチに学び、国際的にもマルチに活動できる生活支援コンシェルジュのための専門科目を設ける。</p>	<p>子どもも人格を持った一人の人間であることを心に留め、子どもの成長を助けるための専門的な知識・技能・実践を備えた幼稚園教諭、保育士の養成を目的として、その実現のためのカリキュラムを編成する。</p> <p>①一般教育科目では、専門性にとらわれない幅広い視野と豊かな人間性の育成を図る。</p> <p>②専門教育科目では、幼児教育者としての専門知識や実践的技術を体系的に修得できるようカリキュラムを組み立てる。</p> <p>③その上で、「表現・音楽コース」と「心理・環境コース」の2コースを設け、個々の学生の多様な関心や目的を尊重し、支援するための学習カリキュラムを編成する。</p> <p>④1年生と2年生の「学び合い」による学生自身の主体的な自己表現・自己成長を促す機会を創出することを基本姿勢として重要視する。</p> <p>●「音楽・表現コース」では、ダンスや音楽に関するコース専門科目を設け、それらの学びの集大成としての「実技発表会」を通して、演奏・表現技術の向上と創意工夫する力、自らの学びの目標を具体化することで個々の課題に立ち向かう意欲と、完遂することでの達成感の享受を目指す。</p> <p>●「心理・環境コース」では、幼児期からの環境教育に寄与する人材と、地域の乳幼児とその保護者の子育て支援が実践できる人材の育成を目指し、体験型のコース科目を設ける。それにより、保育現場での現代課題に対応する力量と、自ら感じ、学ぶ態度を身につけ、他者及び環境に対する共感力・感受性を育成する。</p>

学位授与方針（ディプロマポリシー）	<p>本学は短期大学士課程において、社会人としての汎用的能力の修得に加え、地域生活支援学、幼児保育の2学科が提供する「栄養、福祉、保育・教育」に関する専門的知識・技能を有する人材を育成する。また本学は、地域の自然や文化を愛し、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力をもつ教養人であるとともに、専門的知識・技能を駆使して、グローバル化、高齢化・人口減少社会等によってもたらされた新しい課題の解決に向けて挑戦する心を持ち、地域で活躍する専門職業人として「地域生活を支援し、創造することができる人材」を育てることを、教育の理念・目標として掲げる。</p> <p>本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育、専門教育及び課外活動を含む学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、本学の短期大学士課程・保育福祉専攻に共通する到達目標を定め、これを学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とする。</p>			
	到達目標			
	<p>I【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】</p> <p>①自己の心と体の状態を把握し、健康な生活管理を図ることができる。</p> <p>②自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。</p> <p>③主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。</p> <p>④社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。</p> <p>⑤生涯にわたって自律・自立して学習できる。</p>	<p>II【教養ある専門職業人としての基礎力】</p> <p>①社会生活・職業生活にとって意味ある知識を獲得し、総合的に理解・使用することができる。</p> <p>・多文化・異文化に関する知識の理解。</p> <p>・人類文化、社会、自然に関する知識の理解。</p> <p>②専攻する特定の学問分野における知識を体系的に獲得することができる。</p> <p>③上記知識体系を外部的視点で捉え返すことができるとともに、自己と関連付け洗練していくことができる。</p>	<p>III【社会人としての汎用的能力】</p> <p>①確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。</p> <p>②自然や社会的事象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。</p> <p>③ICTを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。</p> <p>④情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。</p> <p>⑤問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題に的確に対応できる。</p>	<p>IV【地域生活を支援し、創造する力】</p> <p>①上記I～IIIの態度・志向性・知識・技能の知識を総合的に活用し、個人の職業生活及び社会生活のクオリティ向上を図ることができる。</p> <p>②地域での実践活動をもとに、上記I～IIIの知識・技能・態度・志向性を総合的に活用し、自発的に地域課題を解決することができる。</p> <p>③上記I～IIIの知識・技能・態度・志向性の総合的知識を統合し、個人の人間性の高揚を高めていくことができる。</p>
地域生活支援学科	幼児保育学科			
<p>厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、短期大学士（地域生活支援学）の学位を授与する。</p> <p>①知識と技術を相互に連携して、複合的に活用でき能力を身につけている。</p> <p>②グローバルな視点から地域生活者への支援ができ、国際人としての感性と素養を身につけている。</p> <p>●食生活支援コース</p> <p>③食と栄養についての専門的知識と技術を修得している。さらに、地域と連携して食生活改善を支援・推進する応用力と実践能力を身につけている。</p> <p>●福祉生活支援コース</p> <p>③介護に関連する専門的知識と技術と共に、利用者本位、自立支援、人権擁護の視点を持ち、職業倫理を身につけ、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解している。さらに、地域と連携して要介護者への生活改善を支援・推進する応用力と実践能力を身につけている。</p> <p>●多文化生活支援コース</p> <p>③生活全般を支援するための食と福祉と多文化にまたがる汎用的専門知識と技術を修得している。さらに、グローバルな視点を持って国際社会でも活躍できる応用力と実践能力を身につけている。</p>		<p>厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、短期大学士（保育学）の学位を授与する。</p> <p>①修得した知識・技能・態度により、自らが発見した新たな課題を解決することができる。</p> <p>②職業生活、社会生活に必要な知的活動を支えるコミュニケーション能力や論理的思考力を身につけている。</p> <p>③自律しながらも他者と協調して行動でき、社会の一員として社会の発展に寄与できる。</p> <p>④保育の専門職として専門分野の幅広い基礎知識と実践力を有し、実践の場で具現化していくことができる。</p> <p>⑤以上4つの能力の修得を基盤として、コースごとに次に挙げた能力を修得している。</p> <p>●表現・音楽コース： 自己を表現することと目標を完遂することに積極的な意欲を有する。</p> <p>●心理・環境コース： 多様な体験と交流を通して、他者への共感と自ら学び取る態度を身につけている。</p>		

到達目標と学修成果

【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある社会人としての基礎力】 (知識・理解)	【社会人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
<p>1) <u>自己意識を持って意見や立場を理解し、自律的意識をもって協調する態度を身につけることができる。</u> ①自分の意見を自律的に分かりやすく人に伝えることができる。 ②相手の意見を丁寧に聴き、意見の違いや立場の違いを理解して協調した対応ができる。</p> <p>2) <u>社会規範に沿った倫理観をもち、社会の一員としての責任をもつことができる。</u> ①自己の良心と社会規範に沿った倫理観の下での対応ができる。 ②社会のルールや人との約束を守って社会の一員として責任を持って立ち居振る舞い対応ができる。</p> <p>3) <u>将来目標に向けた自立的志向、ライフスタイルに応じた生涯学習志向を持つことができる。</u> ①社会規範に沿った基本的な生活習慣や、自己の健康・体力を管理することができる。 ②ストレスの発生源に対して自律的かつ柔軟に対応し、危機管理を行うことができる。 ③自主的に将来の目標に向かって自立学習をすることができる。</p>	<p>1) <u>人文科学、他文化や異文化に関する知識を身につけ、人間性への理解認識を深めることができる。</u> ①人文科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ②多文化や異文化に対する認識と理解を持って知識を身につけることができる。</p> <p>2) <u>社会科学・自然科学に関する知識を身につけ、物事への理解認識を深めることができる。</u> ①社会科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ②自然科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。</p> <p>3) <u>将来社会生活・職業生活に向けた基礎知識を身につけ、生活での多様な役割や意義関連への理解を深めることができる。</u> ①生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていくことができる。 ②職業生活・社会生活に必要な基本的な常識を身につけることができる。</p>	<p>1) <u>日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。</u></p> <p>2) <u>自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析、理解し、表現することができる。</u></p> <p>3) <u>将来社会生活・職業生活に必要な基礎的技能を身につけ、問題を発見し解決することができる。</u> ①情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ②情報や知識を複眼的、論理的に分析して物事を考え、その結果を文書や発言として表現できる。 ③問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。 ④職業生活・社会生活に必要な基本的な所作やマナー、文章作成、必要に応じた技能検定資格等を身につけることができる。</p>	<p>1) <u>物事に進んで取り組み、他人との協調のなかで行動することができる。</u> ①物事に進んで取り組み行動することができる。 ②他人に働きかけを行い、巻き込みながら行動することができる。</p> <p>2) <u>目的を設定し、将来設計に沿って確実に行動することができる。</u></p> <p>3) <u>獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、経験から新しい価値や課題を見出し解決することができる。</u> ①経験を基にさらに新しい価値を生み出すことができる。 ②これまでに獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。</p>

【共通】汎用的能力要素(到達目標)及び学修成果

	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある専門職業人としての基礎力】 (知識・理解)	【専門職業人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
【地域生活支援学科】 専門的能力要素及び学修成果(到達目標)	<p>地域生活支援学科共通</p> <p>1)食と福祉と多文化にまたがる複合的分野に対して、自ら積極的に興味を持って学修でき、「知識と技術の横のつながり」を人々への生活支援のために自律的に発揮できる能力を有している。</p> <p>●食生活支援コース</p> <p>2)食と栄養を目指す者としての自立心と他者との協調性を持って主体的に考え取り組むことができる。</p> <p>①食と栄養に関する専門職域の仕事内容の理解ができています。</p> <p>②自分がどういった食の専門職・栄養士になりたいか目標を持つことができる。</p> <p>③約束を守る、規則を守る、時間を見ながら行動できなど自己管理能力が備わっている。</p> <p>3)健康と環境や社会に関心を持つことができる。</p> <p>①健康と環境に関する社会的問題に興味を持つことができる。</p> <p>②食物の栄養や食品の流通と消費について考えることができる。</p> <p>③食生活上の安全性の確保のあり方に関心を深めることができる。</p>	<p>地域生活支援学科共通</p> <p>1)地域の特性に密着した日常レベルでの衣・食・住を根幹とした生活科学分野と人文・社会・自然の各科学分野とを連携した複合的知識と技術を有している。</p> <p>●食生活支援コース</p> <p>2) 栄養と健康について専門領域の基本的理解ができています。</p> <p>①社会生活と健康、人体の構造と機能について理解ができています。</p> <p>②食品の栄養特性と衛生管理及び栄養の意義について理解ができています。</p> <p>③ライフステージ別栄養のあり方と各種疾病における基本的な食事療法について理解ができています。</p> <p>3)食の各分野の対象者特性に応じた食支援のねらいや内容、方法を理解している。</p> <p>①対象者の実態を把握し問題点を抽出できる。</p> <p>②健康や栄養に関する知識や技術を駆使して対象者に合わせて必要な情報を提供することができる。</p> <p>③対象者の状態に応じた食支援を考えることができる。</p>	<p>地域生活支援学科共通</p> <p>1)どのような状況の変化と人々にも対処できる食と福祉と多文化にわたる汎用性のある知識と幅広く活用できる技能および柔軟な人間性を持った有機的な生活支援ができるコンシェルジュにふさわしい能力を有している。</p> <p>●食生活支援コース</p> <p>2)食の現場で求められる専門的技能の基本を身につけ多様な場面で展開できる。</p> <p>①基本的な調理技術が身につけている。</p> <p>②旬の食材や季節感を大事にし、多様な場面に応じた食事計画による給食の運営ができる。</p> <p>③対象者の健康や食生活の問題点を把握し、それらを解決するための方法を計画し実践できる。</p> <p>3)対象者の立場に立ち、対象者に応じた食支援(食指導)ができる。また、適切に食環境を整備できる。</p> <p>①対象者への話しかけや説明が適切にできる。</p> <p>②対象者の生活習慣や食習慣、食嗜好など様々な面を考慮して総合的に支援を展開できる。</p> <p>③対象者が健康的で安全な食生活を送るために適切に食環境を整備できる。</p>	<p>地域生活支援学科共通</p> <p>1)生活の要素を科学的に分析・把握することにより生活全般を見渡せる俯瞰能力を身に付けており、経験をもとにした創造的発想ができる、「マルチに学び、マルチに活動する」生活支援のプロフェッショナルにふさわしい能力を有している。</p> <p>●食生活支援コース</p> <p>2)食育活動を通して地域貢献できる力を身につける。</p> <p>①学内外の食育活動に関心を持つことができる。</p> <p>②学内外の食育活動に積極的に参加できる。</p> <p>③ニーズに応じた食育活動を計画・実施できる。</p> <p>3)他者と信頼関係を築き、協働できる。</p> <p>①グループワークができる。</p> <p>②報告・連絡・相談ができる。</p> <p>③コミュニケーション力がある。</p>

●福祉生活支援コース

2)利用者本位のサービスを提供し、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。

- ①介護を必要とする人やその家族の心理を理解できる。
- ②保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について理解できる。
- ③施設・在宅におけるチームアプローチの方法、報告・連絡・相談ができる。

3)他者に共感でき、人権擁護の視点、職業倫理を身につけている。

- ①相手の立場を理解し共感・受容できる。
- ②人間に対する尊厳を保持し、自立(律)した生活を支える必要性を理解できる。
- ③介護福祉士としての職業倫理と権利擁護のしくみが理解できる。

●多文化生活支援コース

2)地域文化を理解・継承しながら、多様な人々の幸せと生活向上に自律的に取り組むことができる。

- ①地域の人々と交流を積極的に図ることができる。
- ②人々の幸せとは何かを考えることができる。
- ③身に着けた人間力により成果を発表することができる。

3)国際社会の推移を注意深く観察し、グローバル社会に積極的に参画できる人間性を有している。

- ①マスコミ等により社会の国際的動きを的確に理解することができる。
- ②国際情勢を客観的に分析することができる。
- ③自ら考え、分析した社会の動きを発表することができる。

●福祉生活支援コース

2)あらゆる介護場面に共通する基礎的な知識・技術を修得している。

- ①生活の概念や自立に向けた生活支援の知識や技術を修得し、説明できる。
- ②介護に必要な医学的な知識や心理について理解できる。
- ③介護に関する社会保障(介護保険制度、障害者総合支援等)の施策について理解できる。
- ④ケアマネジメントのシステムについて理解できる。

3)介護過程の意義と目的を理解し、利用者に適したアセスメントができる。

- ①アセスメントに際し、ICF、将来の予測を考察し、その根拠が説明できる。
- ②アセスメントに基づいた介護計画が立案できる。
- ③自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識や方法を理解できる。

●多文化生活支援コース

2)世界に展開できる人間性を持った社会人として必要な体力、語学力(英語、ハングル語、中国語等)を身につけている。

- ①自分に合った外国語の学習方法を見つけることができる。
- ②海外からの学生や研究者に積極的に話しかけ、自分の意見を説明することができる。
- ③専門語を交えながら、留学生や訪問者に外国語で交流することができる。

3)海外の国々や日本の文化を素直に理解し、認め合う社会人となるための情報を的確に収集・発信できる力を身につけている。

- ①我が国の文化の特徴を理解している。
- ②海外からの学生や訪問者から異なる文化を理解し、我が国の文化と比較することができる。
- ③我が国の文化の特異性を抽出し、外国語により説明することができる。

●福祉生活支援コース

2)利用者の情報を収集・分析し、介護計画作成、実践、評価について理解できる。

- ①利用者信頼関係を結ぶためのコミュニケーションをとることができる。
- ②介護過程の一連の流れを理解し、在宅と施設の介護過程の相違を説明できる。
- ③記録の必要性を理解し、的確な記録・記述ができる。

3)利用者の生活状況に応じ、自立に向けた介護支援技術を修得し、実践できる。

- ①利用者の多様な生活場面における介護実践の方法を理解し、自助具・福祉用具を活用できる。
- ②行った介護について記録や報告が的確にでき、振り返り、次の介護に活かすことができる。
- ③医療的ケアに関する知識と技術を修得し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことができる。

●多文化生活支援コース

2)食と福祉の視点を持ち、ホスピタリティ精神にあふれる生活支援ができるスキルを身につけている。

- ①我が国の食と福祉に関連するホスピタリティの特質を把握している。
- ②海外のホスピタリティとの比較を行い、おもてなしのスキルを高めることができる。
- ③本学への訪問者に適切なおもてなしができる。

3)基礎語学力(英語、ハングル語、中国語、日本語等)を活かし、海外からの留学生、観光客、地域の人々と異文化交流ができる。

- ①自分で選択した語学学修方法により継続して基礎学力を身につけることができる。
- ②海外からの訪問者と積極的に会話することができる。
- ③地域の人々と海外からの訪問者の橋渡しができる。

●福祉生活支援コース

2)介護福祉士の義務規定を理解し、権利擁護(アドボカシー)の視点や高い倫理性を持って行動できる。

- ①相手の立場に立つことができ、常に利用者本位の視点を持って行動できる。
- ②利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つことができる。
- ③介護計画に沿った実施、評価ができる。

3)他の職種の役割を理解し、チームに参画することができる。

- ①チームに参画し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることができる。
- ②介護福祉士としての意見を述べるができる。
- ③リーダーシップをとることができる。

●多文化生活支援コース

2)地域の人々と積極的に交流し、地域の人々のニーズを的確に把握し、問題解決のための行動ができる。

- ①地域の人々との会話をする機会を積極的に設けることができる。
- ②地域の問題点を交流を通して発掘することができる。
- ③発掘した問題点を解決する方法を提案することができる。

3)地域の人々や海外からの人々との交流により得られた文化、生活情報を分析し、次の行動指針にできる。

- ①海外からの訪問者をおとして、文化、生活情報を得る努力をすることができる。
- ②異文化が共存できる環境について考えることができる。
- ③考えた環境を実社会で整合させて行動を起こすことができる。

	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある専門職業人としての基礎力】 (知識・理解)	【専門職業人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
【幼児保育学科】 専門的能力要素 (到達目標) 及び学修成果	<p>1) <u>保育職の社会的使命と職業倫理について理解している。</u> ・保育者の役割を理解する。 ・保育者の守秘義務と倫理を理解する。</p> <p>2) <u>自らの保育を振り返ることの重要性を理解し、それに基づいて改善することができる。</u> ・保育に情熱を抱き、自分がどうい保育者になりたいか目標を持つ。 ・保育の記録を適切に取ることができる。 ・自己評価が適切にでき、次の計画作成へ生かすことができる。</p> <p>3) <u>子どもや保護者に共感的態度を持って接することができる。</u> ・愛情を持って子どもと関わるができる。 ・幼児の活動に共感し、一体感が持てる。 ・子どもの興味・関心・言動の背景を理解する。 ・保護者の状況やその意向を理解できる。</p>	<p>1) <u>保育の役割・機能・保育者の責務を理解している。</u> ・危機管理意識をもつ。 ・養護と教育が一体となって行なわれる保育の実際について理解する。 ・デイリープログラムおよび保育士の職務を理解し、子どもへの具体的な援助・指導について考えることができる。 ・子どもの体調に合わせた保育をする。</p> <p>2) <u>発達過程や個々の特性に応じた支援の方法を理解している。</u> ・子どもの心身の発達段階を理解する。 ・発達段階に応じた言葉遣いができる。 ・発達段階に応じた具体的な保育内容を立案できる。 ・一人一人の子どもに応じた言葉かけやサポートができる。</p> <p>3) <u>各領域の保育のねらいや内容・方法を理解し、総合的に指導することができる。</u> ・保育所保育指針と幼稚園教育要領を理解する。 ・指導案作成や連絡帳などを適切に記述できる日本語能力を習得する。 ・動植物の生態に関する知識を持ち、動植物を適切に育てることができる。 ・季節に応じた日本の行事を知り、その意味を説明できる。</p>	<p>1) <u>ねらいに応じた教材の作成や保育環境を構成することができる。</u> ・指導計画立案ができる。 ・ニーズに応じた多様な支援をすることができる。 ・ねらいに応じた教材研究ができる。</p> <p>2) <u>子どもの主体性を尊重し、子どもの反応に臨機応変に対応しながら保育を展開できる。</u> ・一人一人の子どもを把握し、適切に援助できる。 ・子どもへの話しかけや説明が適切にでき、子どもを見守り支援できる。 ・子どもの主体的な遊びや子どもの相互のかかわりを大切にして、生活や遊びを通して、総合的に保育を展開することができる。</p> <p>3) <u>保育現場で求められる専門的技術の基礎・基本を身に付け、多様な表現ができる。</u> ・ピアノ技術の習得をする。 ・絵本・紙芝居・パネルシアターなどを実演できる。 ・うたや手遊びで子どもと楽しむことができる。 ・運動あそびに必要な基礎的な技能を高める。 ・身体表現の楽しさを体験し、リズム感を身につける。 ・いろいろな素材や用具を使って、工夫して製作できる。</p>	<p>1) <u>子どもの遊びに応じて、保育環境を構成することができる。</u> ・保育の環境整備に関心を持つ。 ・子どもが自発的・意欲的に関わる環境構成ができる。</p> <p>2) <u>子どもの興味・関心を基礎とした保育における豊かな感性を発揮することができる。</u> ・身近な自然や物の音や音色、人の声や音楽等を子どもに伝えられる。 ・美術や音楽、芸術などに関心を持つ。</p> <p>3) <u>保育において多様な他者との信頼関係を築くための働きかけを行うことができる。</u> ・コミュニケーション力ができる。 ・報告・連絡・相談ができる。 ・子育て中の家庭への支援体制について理解できる。</p>